
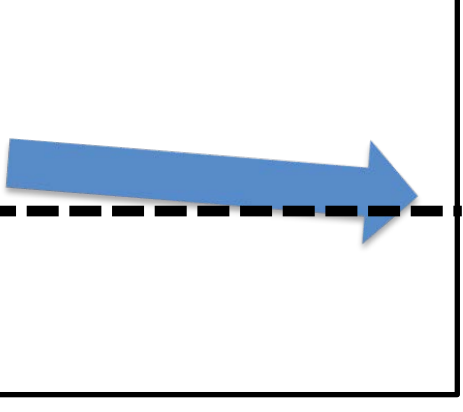
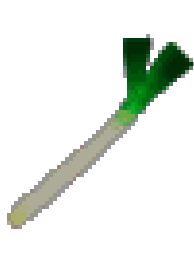

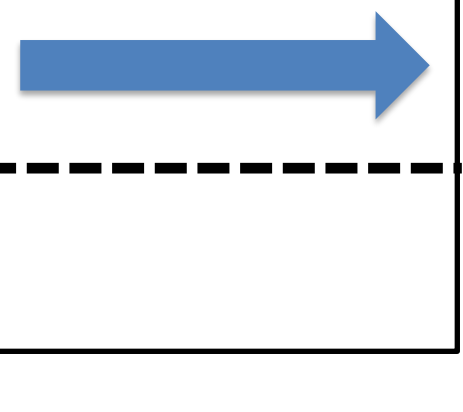

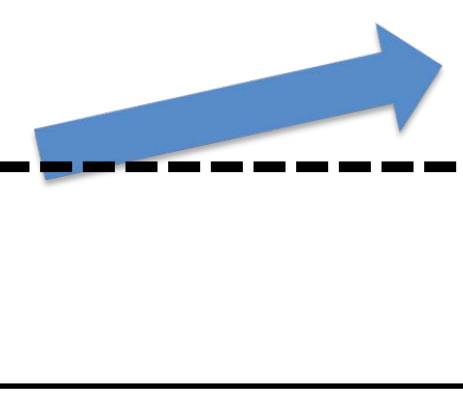

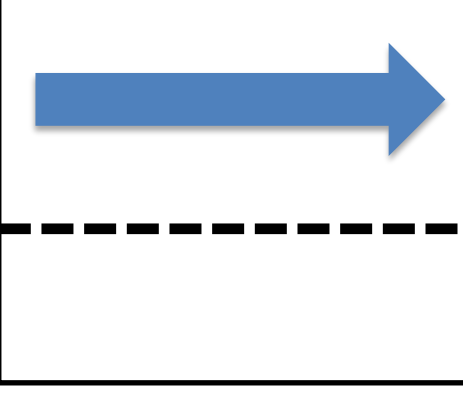


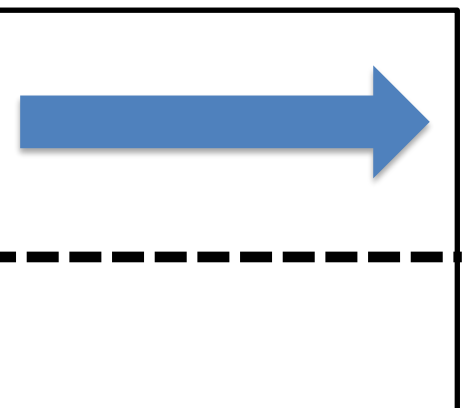

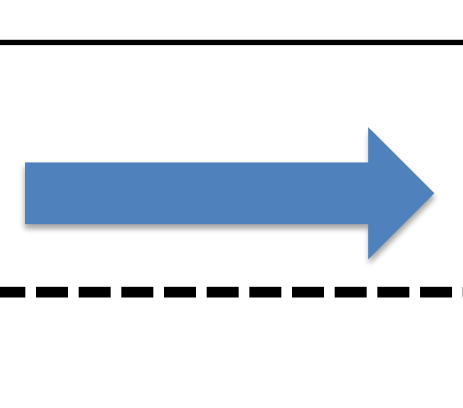
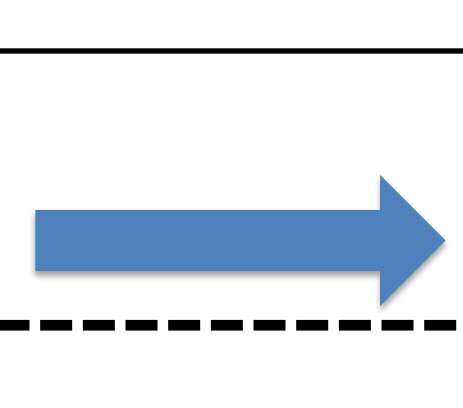
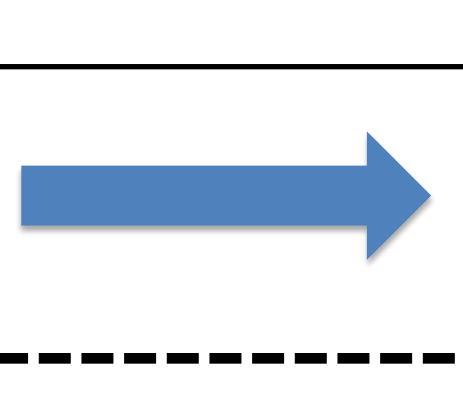


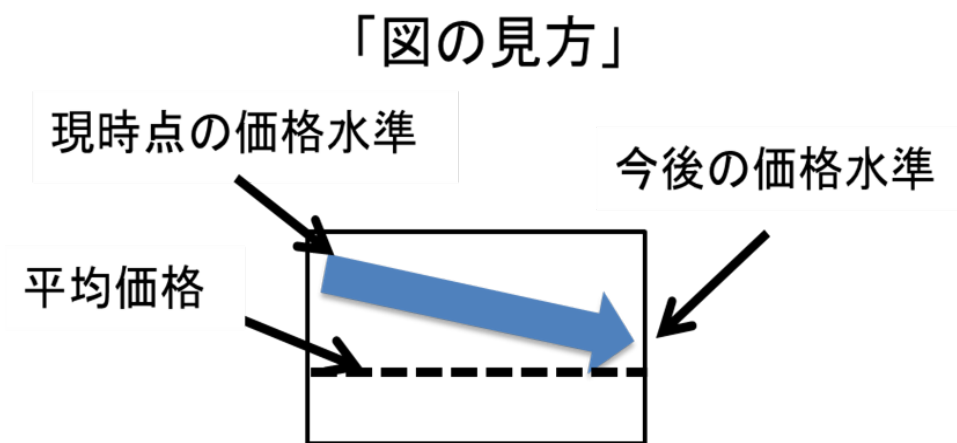

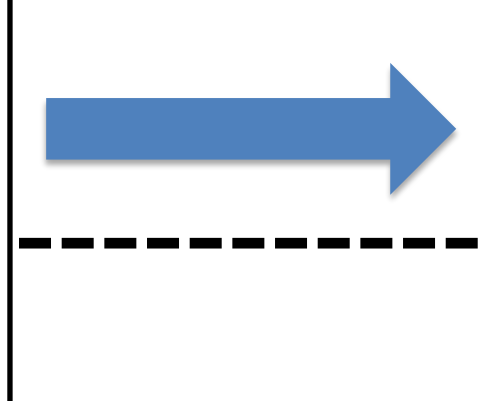

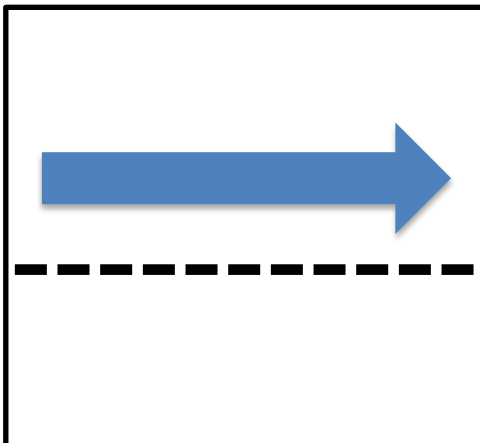

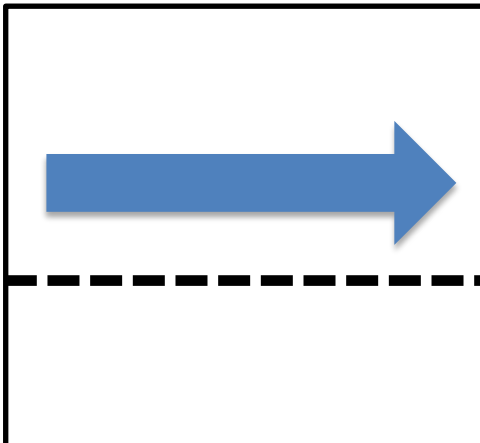
野菜の需給・価格動向レポート(平成28年10月3日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種 類		8 月の価格情報		9 月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の10月中旬までの見通し	
		(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の 関東・近畿 ブロック旬 別平均販売 価額	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿 ブロック旬別平均販売 価額			
			下旬		上旬	中旬		
葉 茎 菜 類		74.19	66 (89%)	74.19	76 (102%)	95 (128%)		群馬産は、台風等の多雨により肥大が早く大玉傾向であるものの、腐敗や病害の発生により歩留まりが低下していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、8月中旬の多雨によりやや生育が遅れていたものの、その後は順調で、現在出荷は平年並みとなっており、今後は生育の遅れも回復すると見込まれることから、平年より多めの出荷の見込み。
		88.91	67 (75%)	88.91	81 (91%)	97 (109%)		群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		93.34	142 (152%)	83.77	134 (160%)	116 (138%)		北海道産は、台風の被害を受けたものの作柄が良く、また、被害のあった輸送網についてもトラック等の振り替え輸送に対応し、一部では復旧していることもあり、引き続き平年より多めの出荷の見込み。
		93.34	156 (167%)	83.77	147 (175%)	116 (138%)		北海道産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		287.00	302 (105%)	287.00	310 (108%)	336 (117%)		青森産は、台風の影響により折損等が発生しており、下等級品の増加や歩留まりの低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産は、台風による折損や腐敗が散見され、品質や歩留まりの低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。秋田産は、生育は概ね順調であるが、稲刈り等の作業があり収穫が遅れていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。山形産は、多雨による収穫遅れや病害も散見されることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		487.13	497 (102%)	487.13	526 (108%)	541 (111%)		秋田産の出荷が平年並みと見込まれるものの、青森産、北海道産及び山形産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		81.96	56 (68%)	81.96	71 (87%)	98 (120%)		長野産は、多雨による収穫の遅れや傷みが見られ、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復に伴い、出荷量の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、曇天が多いものの大きな影響はなく、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		88.72	51 (57%)	88.72	66 (74%)	90 (101%)		長野産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		583.95	700 (120%)	583.95	999 (171%)	783 (134%)		群馬産は、一部産地で台風及び曇天の影響で生育遅れがあるものの、それ以外の産地では生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、曇天が多いものの大きな影響はなく、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、生育は概ね順調で、現在平年並みの出荷となっているものの、台風の影響により、一部播種できなかったほ場があることから、今後は平年より少なめの出荷の見込み。
		670.86	752 (112%)	670.86	886 (132%)	830 (124%)		群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、栃木産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		158.27	133 (84%)	158.27	179 (113%)	166 (105%)		茨城産は、曇天による日照不足や降雨により多少の傷みはみられるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。長野産は、前進出荷により現在平年より多めの出荷となっているものの、8月下旬からの多雨及び気温の低下の影響で病害が見られることから、今後は平年より少なめの出荷の見込み。
		152.57	146 (96%)	152.57	188 (123%)	172 (113%)		茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、長野産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。
果 菜 類		221.22	244 (110%)	221.22	272 (123%)	277 (125%)		埼玉産は、現在曇天及び気温の低下により生育が遅れていた分が出荷を迎え、一時的に平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は出荷ペースが落ち着き、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、曇天による日照不足で肥大が進まず細物が多く、着果不良もみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。福島産は、曇天及び気温の低下により草勢が低下し、着果不良もみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、曇天による日照不足により生育が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		232.80	256 (110%)	232.80	307 (132%)	293 (126%)		埼玉産が平年並みと見込まれるものの、群馬産、福島産及び茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		252.46	229 (91%)	252.46	257 (102%)	278 (110%)		千葉産は、現在平年並みの出荷となっているものの、曇天による日照不足や病害の発生が見られることから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、9月上旬くらいまで前進出荷となっていたが、最近の曇天により出荷ペースが落ち着き、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、着果は順調なものの、9月上旬の天候不順により肥大及び着色があまり良くないことから、現在平年より多めの出荷は、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。
		298.46	258 (86%)	298.46	292 (98%)	315 (106%)		茨城産、青森産及び福島産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		230.51	229 (99%)	230.51	314 (136%)	306 (133%)		高知産は、台風等の天候不順により着果不良となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、多雨の影響で病害が散見されることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		232.81	187 (80%)	232.81	278 (119%)	280 (120%)		高知産、栃木産及び群馬産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		263.58	213 (81%)	263.58	276 (105%)	316 (120%)		茨城産は、現在平年並みの出荷となっているものの、曇天による日照不足により生育が遅れており、今後は夜温が低下してくる時期でもあり、生育の回復もすぐには見込めないことから、平年より少なめの出荷の見込み。岩手産は、天候不順による生育の遅れからの回復による後ろ倒し出荷で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		296.27	210 (71%)	296.27	293 (99%)	335 (113%)		岩手産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
根 菜 類		94.60	116 (123%)	94.60	121 (128%)	125 (132%)		北海道産は、台風による大雨の影響で病害や割れが発生しており、肥大も進まず小ぶりのものが多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。青森産は、台風による多雨の影響により腐敗が発生しており、品質も低下していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		95.37	115 (121%)	95.37	118 (124%)	119 (125%)		北海道産及び青森産の出荷が平年よりも少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		123.08	139 (113%)	123.08	224 (182%)	313 (254%)		北海道産は、細物が多いことに加え、台風の影響により腐敗や病害が発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		123.11	144 (117%)	123.11	243 (197%)	331 (269%)		北海道産の出荷が平年よりも少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。

種 類		8 月の価格情報		9 月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の10月中旬までの見通し	<div>「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準</div>
		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額				
			下旬		上旬	中旬			
いも類	さといも	254.79	406 (159%)	254.79	327 (128%)	330 (130%)	<div><div></div></div>	埼玉産は、現在、順調な生育による早めの収穫により、平年より多めの出荷となっているものの、今後は出荷ベースが落ち着くことから、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、降雨の影響及び他の農作業と重なっていることで、収穫が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		220.11	354 (161%)	220.11	402 (183%)	368 (167%)			
	ばれいしょ	111.77	129 (115%)	111.77	154 (138%)	169 (151%)	<div><div></div></div>	北海道産は、台風による収穫の遅れは回復してきており、道外への輸送は振り替え輸送等に対応しているものの、腐敗が発生し歩留まりが低下していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		111.77	135 (121%)	111.77	185 (166%)	170 (152%)			

種 類		8 月の価格情報		9 月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の10月中旬までの見通し	<div>「図の見方」 </div>
		(参考) 過去5カ年 平均価格	東京・大阪 市場の旬別 価格	(参考) 過去5カ年 平均価格	東京・大阪市場の旬別 価格				
			下旬		上旬	中旬			
洋菜類		361.38	503 (139%)	463.99	613 (132%)	536 (116%)		北海道産は、台風の影響により病害が発生し、歩留まりが低下していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、天候不順による日照不足等に伴い生育が遅れており、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復に伴い、生育の回復が見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。長野産は、生育は順調で、高冷地二期作も順調に出荷されていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		374.93	526 (140%)	440.35	551 (125%)	572 (130%)		埼玉産及び長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
根菜類		287.26	378 (132%)	258.04	364 (141%)	344 (133%)		青森産は、台風による多雨の影響により、葉の損傷や茎の折れ等が発生しており、今後は細物や短物が多くなると見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		172.56	264 (153%)	169.63	253 (149%)	240 (141%)		青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っているの価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
果菜類		177.84	246 (138%)	142.49	265 (186%)	212 (149%)		北海道産は、台風やその後の多雨の影響で腐敗等が発生し歩留まりが低下していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		164.50	203 (123%)	133.59	238 (178%)	159 (119%)		北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	

2野菜の輸出入動向

－ 輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について －

貿易統計によると、8月の野菜の輸入量は、生鮮野菜が、5万8千トン（前年同月比108%）、加工野菜が1万5千8トン（同112%）、野菜全体では、2万1千6千トン（同111%）となった。このうち、中国産の野菜合計は1万1千3千トン（同108%）となった。

生鮮野菜及び加工野菜が前年を大幅に上回ったため、野菜全体でも大幅に上回った。

また、8月の中国野菜の輸入量が前年と同様野菜全体の輸入量合計の半数を占めたが（52%）、平成28年に入ってから8カ月累計では50%を下回った（49%）。

また、輸出货量は、生鮮野菜が、994トン（同118%）、加工野菜が、1万7千23トン（同110%）、野菜全体では2万1千6トン（同113%）となった。生鮮野菜及び加工野菜が前年を大幅に上回ったことから、野菜全体の輸出货量も、前年を大幅に上回った。

野菜の輸入数量

(単位:トン、%)

区分	平成26年		平成27年		平成28年8月		平成28年1月～8月	
		前年比		前年比		前年同月比		前年同期比
生鮮野菜	884,735	104	826,845	93	58,390	108	553,862	94
加工野菜	1,785,487	96	1,752,337	98	157,654	112	1,173,373	99
野菜合計	2,670,222	99	2,579,182	97	216,045	111	1,727,235	97
うち中国産野菜合計	1,409,604	100	1,355,491	96	113,272	108	847,978	95
中国産シェア	53		53		52		49	

主な生鮮野菜の輸入先(平成28年8月)

(単位:トン)

	輸入合計		1位		2位		3位	
		前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	25,148	109	中国	22,860	米国	1,246	オーストラリア	456
にんじん及びかぶ	7,342	129	中国	7,152	オーストラリア	186	米国	4
ねぎ	4,212	97	中国	4,212				
ごぼう	3,915	102	中国	3,894	台湾	21		
ブロッコリー	2,247	135	米国	2,127	オーストラリア	120		
にんにく	2,169	107	中国	2,027	スペイン	91	米国	50
メロン	1,884	94	アメリカ	1,873	韓国	11		
しょうが	1,831	136	中国	1,722	タイ	109		

主な生鮮野菜の輸出先(平成28年8月)

(単位:トン)

	輸出合計		1位		2位		3位	
		前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも等	525	97	台湾	244	米国	232	シンガポール	48
きのこ（その他）	139	119	台湾	98	香港	21	タイ	15
キャベツ等	117	253	台湾	61	香港	39	シンガポール	17

野菜の輸出数量

(単位:トン、%)

区分	平成26年		平成27年		平成28年8月		平成28年1月～8月	
		前年比		前年比		前年同月比		前年同期比
生鮮野菜	9,429	101	22,924	243	994	118	20,546	301
加工野菜	17,061	120	20,493	120	1,723	110	14,220	114
野菜合計	26,490	113	43,417	164	2,716	113	34,767	181

主な生鮮野菜の輸入先(平成27年8月)

(単位:トン)

	輸入合計		1位		2位		3位	
		前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	23,045		中国	22,300	オーストラリア	469	米国	190
にんじん及びかぶ	5,694		中国	5,608	オーストラリア	69	ニュージーランド	11
ねぎ	4,338		中国	4,338				
ごぼう	3,820		中国	3,785	台湾	35		
ブロッコリー	1,659		米国	1,605	オーストラリア	31	メキシコ	17
にんにく	2,024		中国	1,971	米国	27	スペイン	24
メロン	1,350		米国	1,330	韓国	21		
しょうが	1,464		中国	1,399	タイ	64	ペルー	1

主な生鮮野菜の輸出先(平成27年8月)

(単位:トン)

	輸出合計		1位		2位		3位	
		前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも等	541		台湾	279	米国	228	シンガポール	34
きのこ（その他）	117		台湾	76	香港	25	タイ	14
キャベツ等	46		香港	37	シンガポール	9		0

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」） ※四捨五入の関係上、合計と国別の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000058.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。